角田柳作展 in ニューヨーク

藤原　秀之（調査役）

2007年10月から12月に開催された角田柳作展やそれにかかわる各種イベントについては、本誌上でもたびたび紹介してきた。前号では企画全体とシンポジウムについて報告し、これまでの総括をおこなった。だが展覧会は今年もまだ続いている。会場はアメリカ、コロンビア大学である。

早稲田とともに角田のもう一つの母校と言ってもよいコロンビア大学でも展覧会を開催しようという話は、昨年の角田展の準備段階から両校の間で確認されていたが、2008年の4月に入ってから俄かに本格化し、実務に関する調整が進められてきた。具体的には、会期・会場の決定、出陳資料の確定、資料搬送方法の確認、各種印刷物の作成、キャプションの作成などである。

6月頃をメドに開催するという話もあったので、時間的にギリギリとなるこの時期に、早稲田側からおおよその展示概要を提示し、それを元に詳細をつめていくという形で構想を固めていった。

会場については、当初からコロンビア大学の人文系のメインライブラリーであるButler Libraryにある貴重書室（Rare Book & Manuscript Library, RBML）の展示スペースを利用するという案が示されていたので、まずはその概要を把握することからはじめた。RBMLは建物の最上階（6階）に位置し、コロンビア大学図書館が所蔵する貴重書の収集、公開のための図書室であり、角田柳作と直接の関係は無いのだが、壁面が展示スペースとなっているため、この場所が用意されたのである。現地の担当者である東亜図書館の野口幸生女史から、展示ケースの大きさや材質などを教えていただき、日本で開催したときのデータと突合せ、全体のレイアウトを確定していった。今回の会場は、独立した展示室ではないという欠点はあるものの、角田の生涯をたどるという展示内容を考えると、横長のケースはかえって使いやすいように思われた。

会期は6月12日を初日8月27日までの2ヶ月余に設定、6月11日にオープニングセレモニーをおこなうこととした。

昨年は角田の故郷である群馬から遠戚にあたる角田修氏、角田昭氏、県立文書館などから多数の資料を借用して展示したが、今回は遠方であり、また最初から長期間となるのがわかっていたので、それらについては精細なカラーパネルで対応し、現物は早稲田とコロンビア大学が所蔵する資料のみとし、日本での展示とほぼ同内容で構成したが、軸、額装のものはその形状に合わせてパネルを作り、特に色紙は原寸大で作成、色紙額に入れて展示したので、一見すると現物とみまごう仕上がりとなった。

和英文併記してあった挨拶文や各コーナーのリード文は英文を上にした形にすべて作り直し、個々の資料のキャプションも野口さんに英訳していただいた。さらにポスター、チラシなどもすべて英文仕様のものを作成、ここでも翻訳は野口さんの手に拠った。この間のコロンビア大学（野口さん）とのやり取りはすべてメールで行なったが、時差の関係もあって、どうしても時間がかかってしまったが、なんとかすべての準備を整え、紀伊國屋書店の協力を得てポスター、チラシ、そして出陳資料をコロンビア大学に送ることができた。あとは現地での設営である。

早稲田からは藤原と松尾（資料管理課）が6月8日に渡米、翌9日に設営作業をおこない、1日遅れて宗像副館長が渡米、オープニングセレモニーに備えることとした。

9日朝、Butler Library前で野口さんと待ちあわせ、早速RBMLに。入り口で司書のLee女史が満面の笑みをうかべ、迎えてくれる。早速展示スペースと事前に送っておいた資料の確認をする。展示スペースは野口さんの話どおり、11のケースにわかれた壁面と平台

が1台である。全面に古びたクロスが貼られた壁面に、レイアウトに従ってパネルを貼っていった。ケースが聞いていた大きさどおりだったので、まったく支障なく作業は進み、先方の手を煩わせることも無く問題なく設営を完了した。100点近い資料がまたたく間に設営されたことに、RBMLの皆さんもたいへん驚いていた。

9日夜には宗像副館長も到着され、翌10日に準備の状況を確認していただき、同日夜にはこれまでもたびたび本誌上で紹介している甲斐美和女史と会食、90歳を超えているとは思えない元気そうな話しぶりと、その健啖に圧倒されつつ、楽しい時間を過ごすことができた。

翌11日夕刻、Butler Libraryでオープニングセレモニーが開催された。当初は展示会場での簡単な挨拶程度を考えていたのだが、コロンビア側の計らいで100人ほど入る教室が別に準備された。最初に東亜図書館のHeinrick館長から挨拶があり、甲斐さん、続いて角田柳作の弟子にあたるDonald Keene先生、James Morley先生からそれぞれ角田柳作にまつわる思い出を語っていただいた。100人ほど入る会場は満室、日本人会関係、コロンビアに学ぶ学生など、さまざまな人がユーモアを交えた3人のお話に聞き入っていた。

展示会場に移動し、宗像副館長とコロンビア大学図書館のNeal館長から開催の挨拶をいただいたのち、来場者に自由に展示をご覧いただいた。見学された方たちのお話を聞くと、一様に「角田についてはよく知らなかったが、今回の展示でその偉大さを再認識した」「こうした機会はこれからも必要ですね」といった声が聴かれた。まずは無事に開会を迎えることができ、一安心といったところであった。

新学期を迎え、来場者の増加が見込まれることもあって会期の延長が決定、9月23日まで開催された。11月末の図書館総合展（26～28日、パシフィコ横浜）でも角田柳作に関するパネル展示、講演会をおこなうことが決定し、また上毛新聞（群馬地方紙）では角田に関するコラムも連載された。著作集の刊行こそまだだが、角田柳作はまだまだ終わらない。

展覧会案内

松尾　亜子（資料管理課）

早稲田大学図書館所蔵　西洋古版本展
ルネサンスの書物とパラーディオ『建築四書』

会場　総合学術情報センター2F 展示室
会期　2008.10.24（金）～11.20（木）
※10.26（日）を除く日曜、祝日は閉室
時間 10:00～18:00

早稲田大学図書館では、インキュナブラとよばれる西洋活版印刷の最初期の版本をはじめ、ヨーロッパの古書・貴重書を多数所蔵しています。今回は、15～16世紀にイタリアで刊行されたものを中心に、館蔵の西洋古版本を展示、ルネサンス期に出版されたギリシア・ローマの古典、そしてダンテ、マキャヴェリ、ヴァザーリなど同時代人たちの著作に加え、今年が生誕500年にあたる建築家アンドレア・パラーディオの著作コレクションを紹介しました。

（表紙および16ページ参照）

〈会場の様子〉